

治療方法の概要

Overview of treatment methods

体位と確認方法

半側臥位或いは仰臥位にてエコーでターゲットレベルの椎間板を正確に確認した後、治療を開始

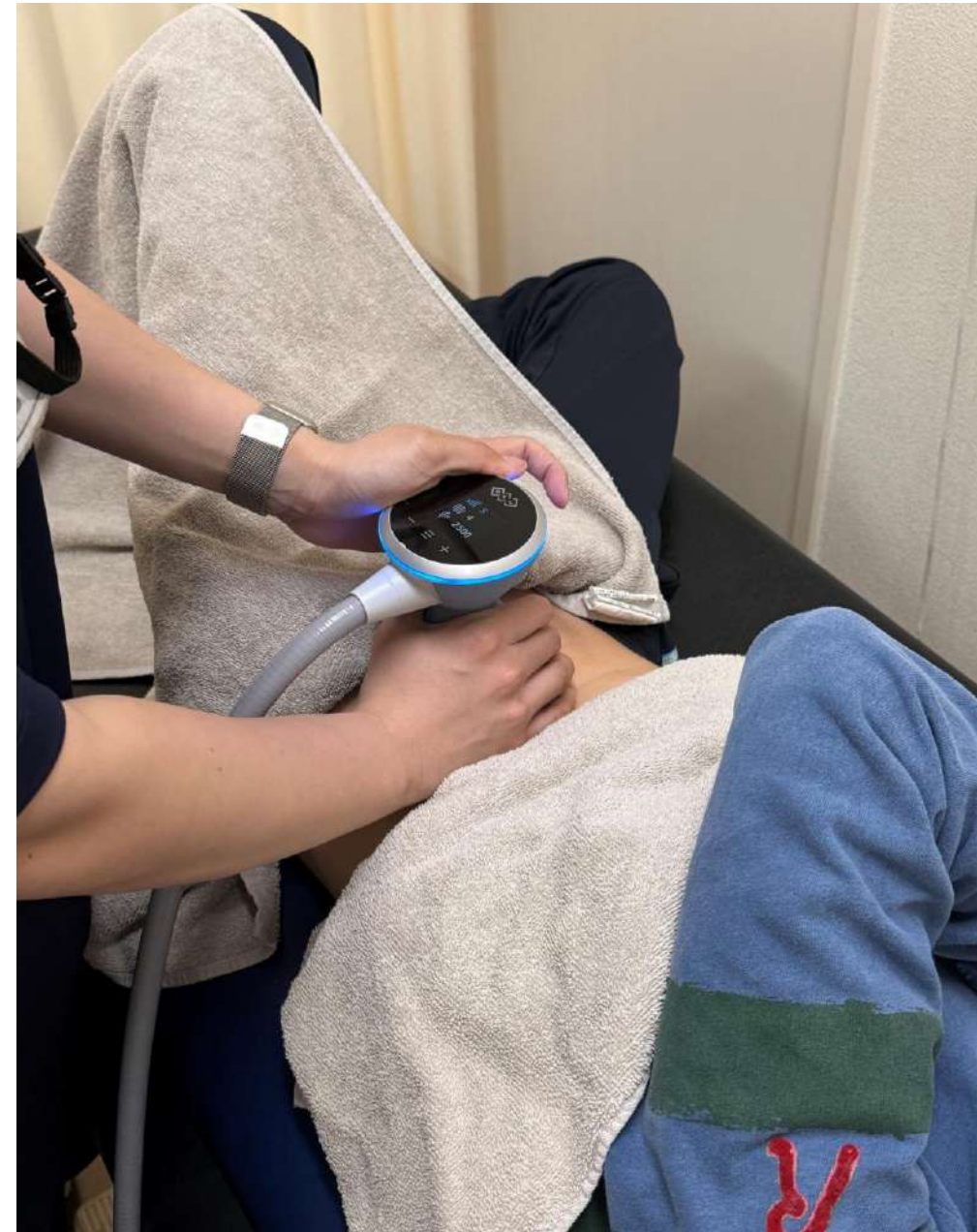
アプローチ方法

前外側アプローチ或いは前方アプローチにより、集束型体外衝撃波を患部に直接照射

照射レベル及び照射回数

最高0.25 mJ/mm²まで2500発 2週に1回 合計3回

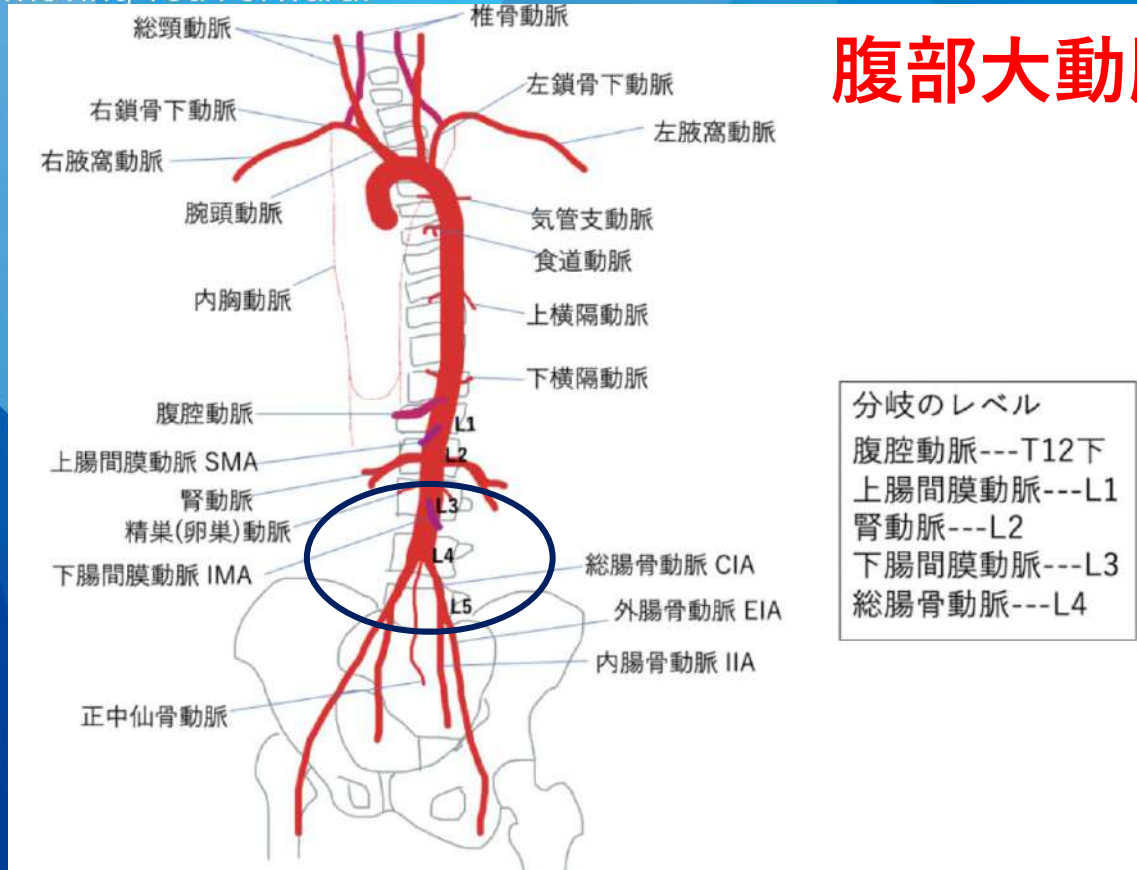
治療開始前と3回照射後のVASの平均値をt検定で比較検討した



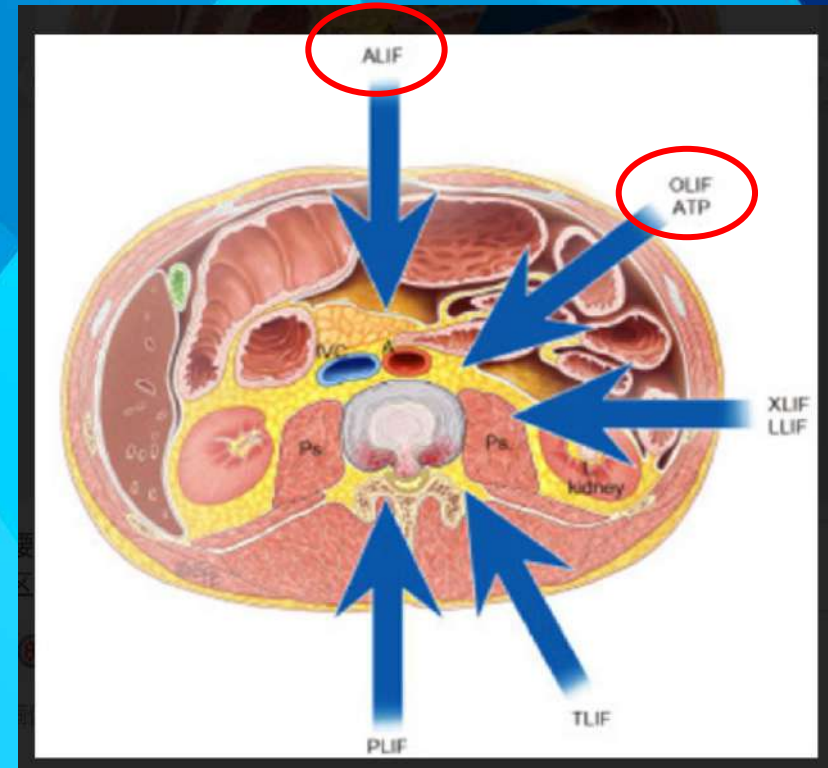
腰椎椎体や椎間板へのSWのアプローチ

SW approach to lumbar vertebral bodies and intervertebral discs

Moving You Forward.™



腹部大動脈の腸骨動脈への分岐がL4/5レベル



- 前外側アプローチ (L4/5まで) 或いは前方アプローチ (L5/S) にてエコーで椎体や椎間板を確認後 ESWTを照射する
- Anterolateral approach (up to L4/5) or anterior approach (L5/S)

高Z位によるアプローチの違い

ZIMMER BIOMET
Moving You Forward.™

- L4/5まで前外側アプローチ
- L5/Sは前方アプローチ

Anterolateral approach (up to L4/5)
Anterior approach (L5/S)



半側臥位で前外側アプローチ（L4/5まで）



仰臥位で前方アプローチ（L5/S）

21歳男性 ZIMMER BIOMET

腰椎椎間板症(L5/S)に対するESWT

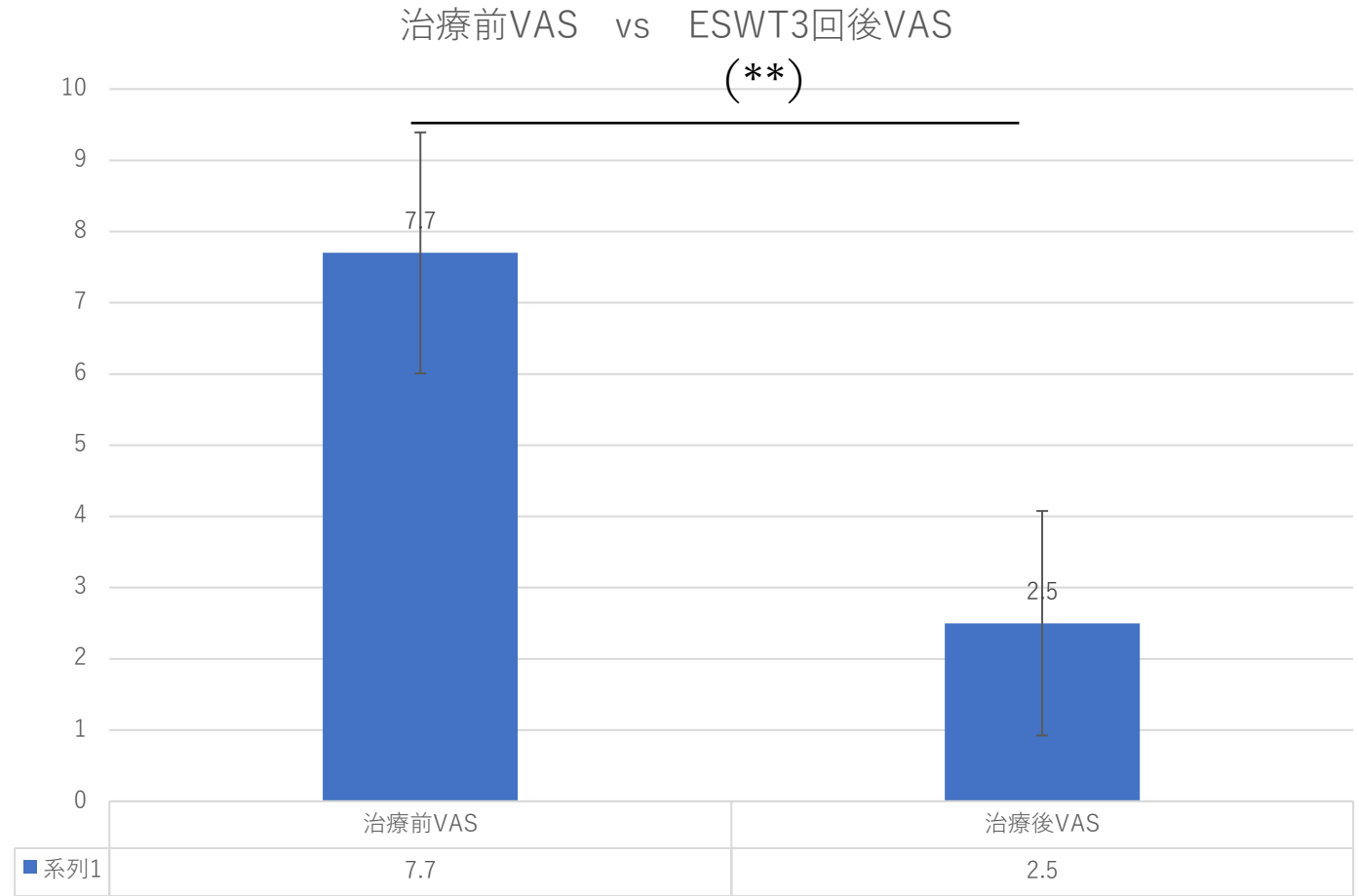


超音波検査により椎体と椎間板レベルを確認し、正確に焦点を合わせることに徹底

Results①



最高0.25 mJ/mm²まで2500発
2週に1回 合計3回



VAS 7.7から2.5
統計学的に有意な疼痛改善効果が確認された。
(**p=0.00482 < 0.01)

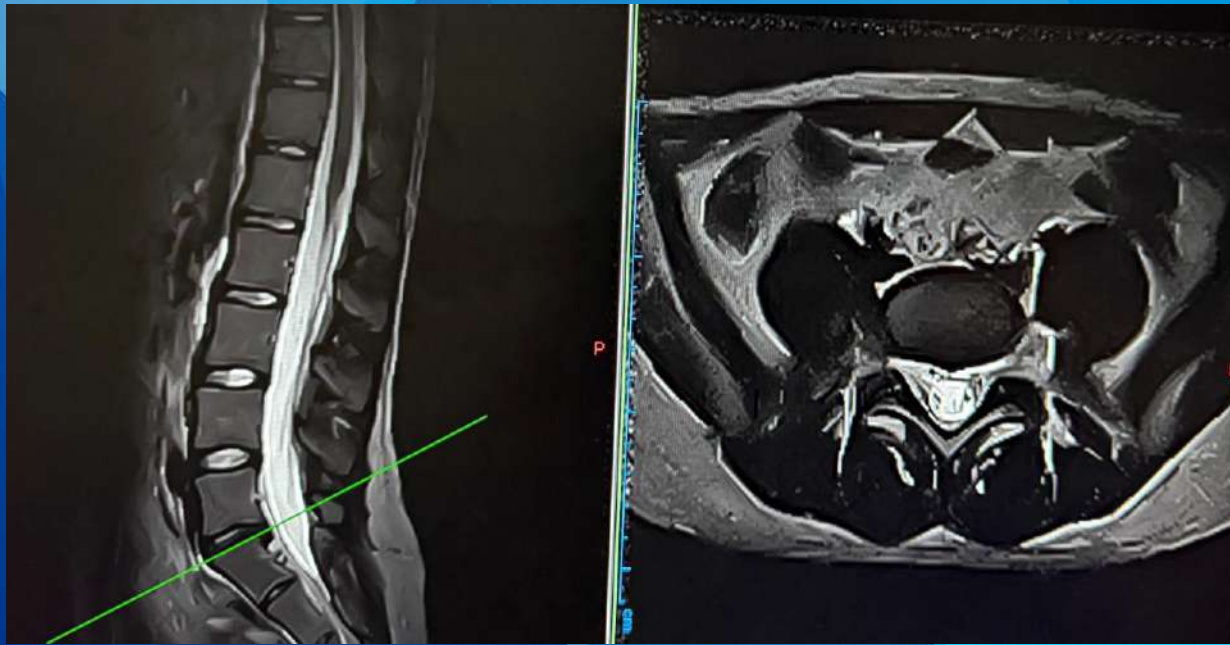


ZIMMER BIOMET

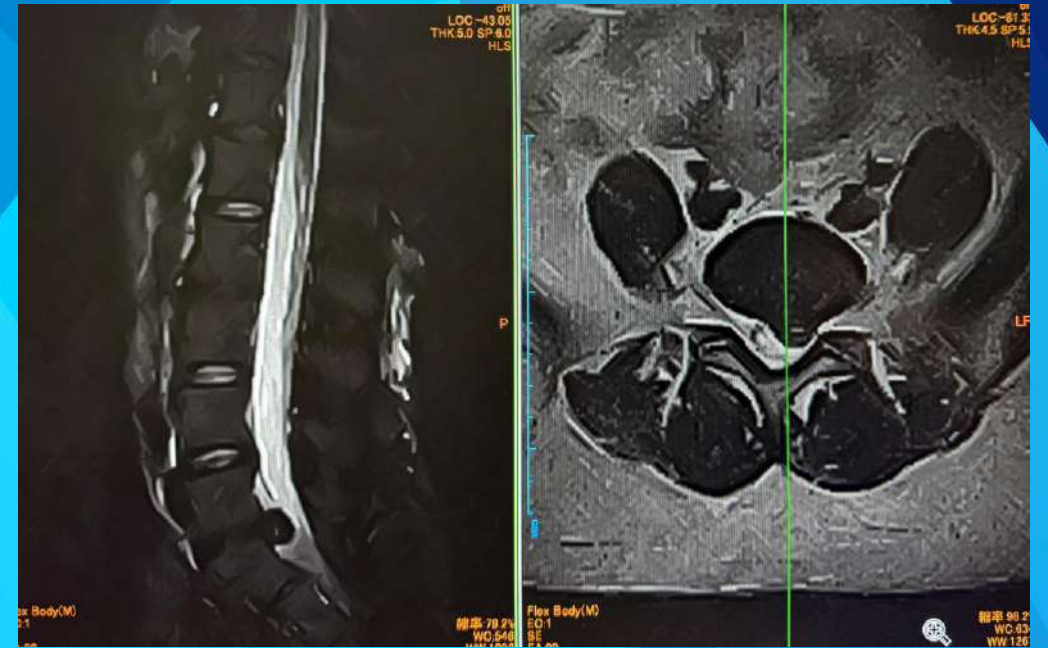
MoM Forward™

結果Results②

- 年齢が若い方が疼痛改善効果が高い傾向
- 椎間板症及び隆起型の椎間版ヘルニアが改善効果が高い傾向
- 突出型でも疼痛改善効果が得られた症例があった



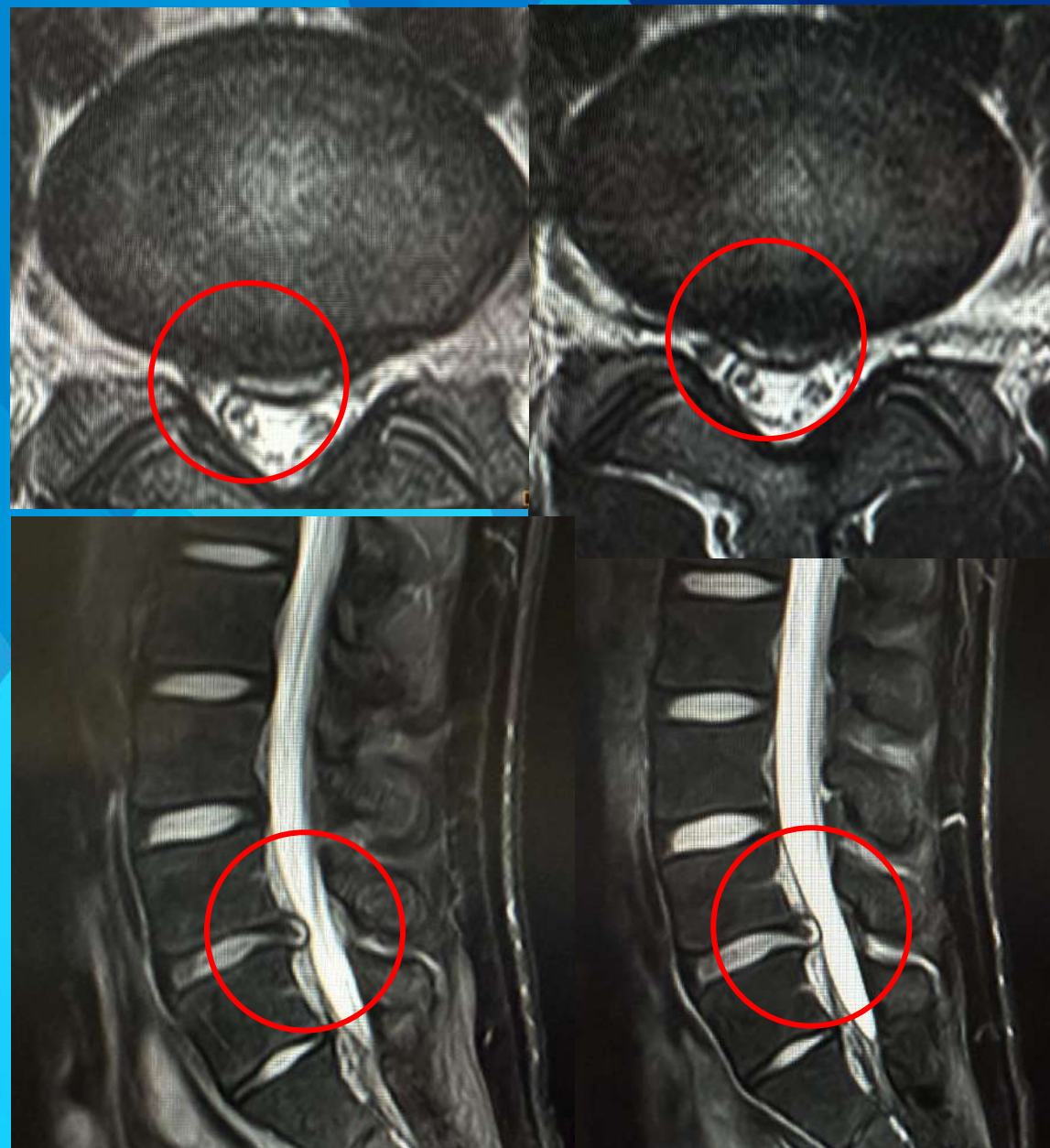
- 15歳女性 隆起型LDH
- VAS 9.9→0.3



- 40歳女性 突出型LDH
- VAS 7.4→1.8

症例①

- 17歳男性
- 野球
- 発症は2025年1月 他院でMRI
(L4/5右隆起型ヘルニア)
- 2025年8月から3回ESWT
- 術後のMRIでヘルニアの縮小と右
の神経根の圧迫が軽減
- VAS 6.6→0.9
- 術前の右下肢しびれは消失

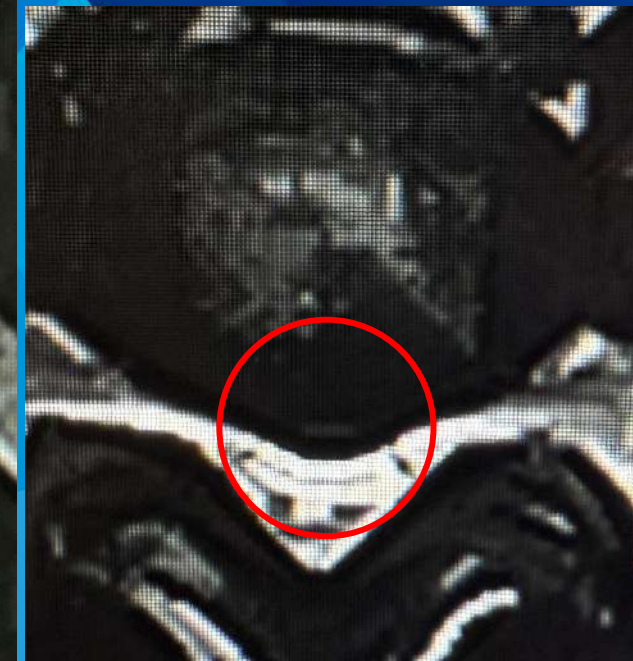


術前

術後

症例②

- 17歳女性
- 新体操
- 発症は2025年1月 他院でMRI
(L5/S左隆起型ヘルニア)
- 2025年5月から3回ESWT
- 術後のMRIでLDHのやや縮小
- VAS 6.4→3.0



術前

術後

- 運動器疾患に対する体外衝撃波治療は適応を選べば非常に効果的な物理療法だと思います。
- 現在、投薬やリハビリで改善しなければ、すぐに手術を勧めるドクターもいるかもしれませんが、保険適応外とはいえ比較的治療コストも低く、費用対効果がある治療だと思います。
- しかしながら、保険診療大国である日本においては、保険外の自由診療というものが、治療の広がりの障壁になってることも事実です。
- 私の役割は、もし運動器疾患に対するこの体外衝撃波治療が患者様にとって本当に有益であり、しかも日本の医療費削減に寄与することができれば、保険収載を受けられるように尽力を注ぐことだと思います。
- 是非、皆さま、まずはこの治療を何らかの形で体験していただき、良いと思われるなら多く広げていくことにご協力ください。

ご清聴ありがとうございました

ZIMMER BIOMET
Moving You Forward.™



大阪本町或いは岸和田のNクリニックへ是非この治療の見学にいらしてください
テクニックに不安がある場合、患者様と一緒に来院していただき、一緒に照射を行いましょう